

ムハンマドについての 言 (上)

:

明:イスラ ムについて学んだ非ムスリムの学者たちによる 言者についての 言。第1部: 序 。

目:[事イスラ ムによる利益イスラ ム、ムハンマド、そしてクルア ンに する著名な人々による 言](#)

目:[事 言者ムハンマド彼の性格](#)

より: iiiie.net (edited by IslamReligion.com)

日 03 Nov 2014

集日 12 Mar 2017



十字 が 威を振るった数世 に渡り、 言者ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）に する、あ
りとあらゆる の がつくりだされました。しかし、近代になり宗教的 容性と思考の自由
が まると、欧米の著作において彼の人生と性格についての描写には大きなアプロ チの
化が られるようになりました。このシリ ズの最 で 介する、非ムスリム学者による 言者
ムハンマドについての 解は、このことを 付けます。

欧米は依然として、人 にとっての最 の 言者であるムハンマドについての、究 の真 への
さらなる一 を踏み出さなければなりません。欧米 による客 性と にも わらず、ムハンマ

彼の言者性を理解しようとする真な取りみはまだなされていません。彼の性と功については多くの著しい辞が送られているものの、彼による言者性の主はあからさまに、あるいはそれとなく拒されていることは、非常に奇妙なことです。心の探求、そしていわゆる客性の再が必要なのはここなのです。以下に述べる、ムハンマドの人生におけるかしい功は、彼の言者性についての偏見、理めかつ客的な真を照らし出すことでしよう。

ムハンマドは40にするまでは、政治家、宣教、あるいは雄弁家としても知られてはいませんでした。彼は形而上学、理学、法、政治、や社会学などについてる者として全く知られていなかったのです。彼が卓越した人格、美しい品行、そして高く洗された人物であったことに疑いはありません。しかしながら、彼が将来的に人となり、革命を起こすことをにおわせるような、とりわけ立った、あるいははずばけた点はありませんでした。しかし、彼があらたな教えを携えてヒラの洞窟から出てきたとき、彼は完全な貌を遂げていたのです。前述のような善良な性を有する、そのような人物が突如として「欺」となり、神の使徒を自称し、人々の怒りをうということとは可能でしょうか？ どういった理由から、彼はあらゆる困を押し付けられたのでしょうか？

マッカの人々は、もし彼がその宗教の布教を止めるのなら、彼を王座に就かせ、土地のすべての富を彼の足元にえると申し出ました。しかし、彼はそのいを拒否し、自らの民によるありとあらゆる中、社会的排斥、さらにはなどに直面してでもその宗教を自分一人で布教する道をんだのです。イスラムが人にとっての唯一の生き方となることを心から信じていたことから、神の教えをめ、あらゆる逆境、そして彼を排除しようという策略にして固として立ち向かったたのは、神による支援と彼自身の断固とした意によるものに他ならなかったのです。もしも彼がユダヤ教とキリスト教に抗しようという意でそうしたのであれば、なぜ彼はイエスやモゼを含む、他の言者たち（彼らに平安あれ）への信仰を、ムスリムであるために要求される信仰条の一つとしたのでしょうか？

彼が文盲であったこと、かつ40年に渡って普通の静かな生活を送っていたということは、彼の言者性における疑いなきではないのでしょうか？

彼がその教えを 始めると、アラビア半 全体はその素晴らしい雄弁さと美しさに震撼
しました。その比 さらから、最高レベルのアラブの 人たち、 教者たち、雄弁家たちも同
レベルのものを作り出すことは出来ませんでした。それに加え、当 の人 にはその知 の
なかった、クルア ンに含まれている科学的な性 の事 について、彼はいかに述べるこ
が出来たというのでしょうか？

さて、なぜ彼は 力を手にした も困 難な道を んだのでしょうか？

彼が死の床において述べた次の言 について熟考すべきでしょう。

“??”

事 ムハンマドは、この地球に人 が始まって以来、 なる土地や 代に遣わされ けてきた 言
者たちの系 における最 の者なのです。次の部では、一部の非ムスリムの著者たちによ
るムハンマドについての著述について ていきます。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/196>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。